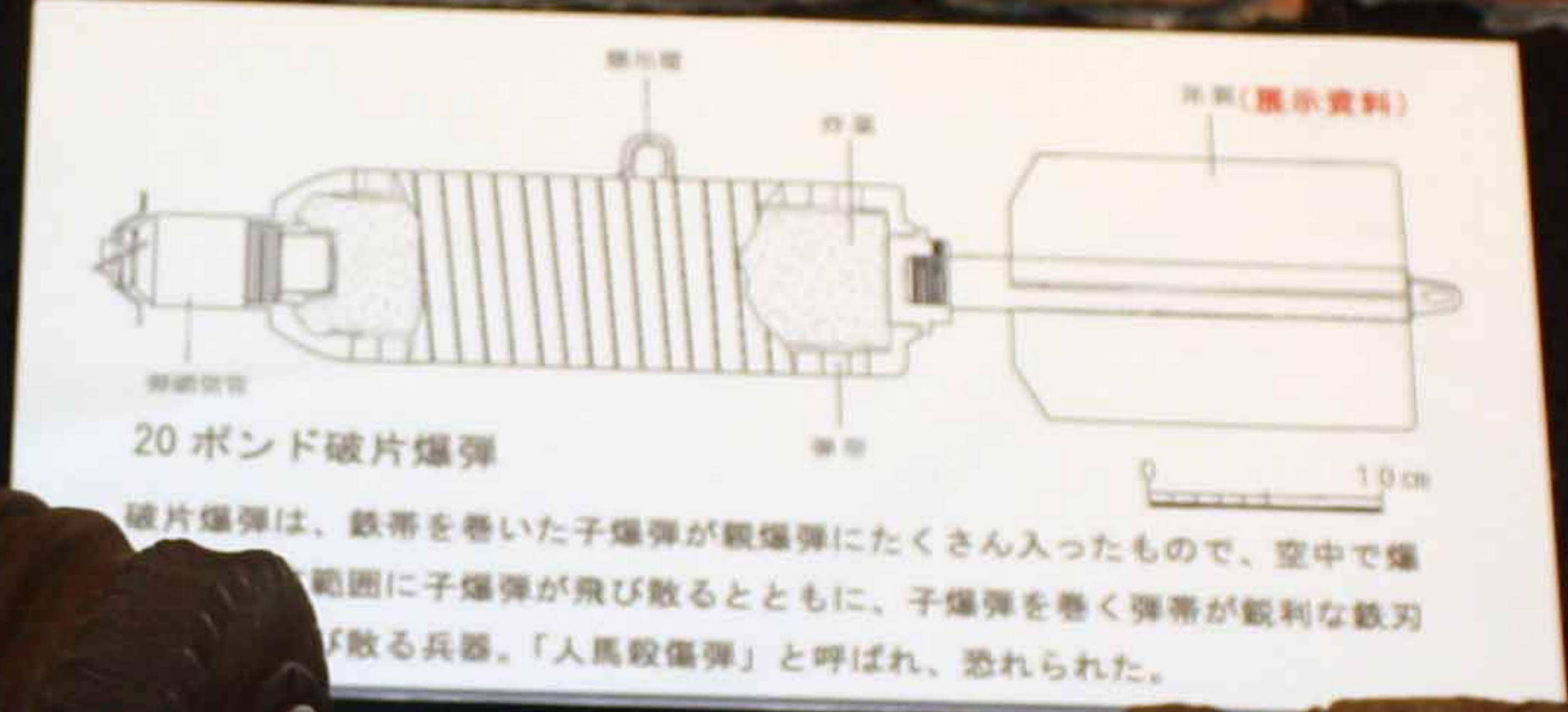




家内で撃弾した軍需の引き戸
昭和19年
 茨城県の八戸市で軍需工場に使用されていた軍需の引き戸。機銃掃射の跡が確認できる。



機銃掃射を受けたレンガ塊
昭和19年
 機銃掃射を受けたレンガの破片。機銃掃射の跡が確認できる。昭和19年7月25日の空襲で最大の被害を受けたレンガに撃たれた跡が当時の機銃掃射の跡として残っている。



20 ポンド破片爆弾
行橋市教育委員会所蔵
 稲妻地区の発掘調査で出土した破片爆弾の残骸。

ハブに接続す
 り、名称や
 端部のジュ
 と細かな
 市此花区)



局地戦闘機「紫電改」プロペラ
小原自治会所蔵 (寄託資料)

築城海軍航空隊飛行場周辺の空襲被害
 昭和19年(1944)、サイパン島の米軍占領以降、海軍航空隊のあった築城飛行場周辺が空襲被害を受けるようになった。
 昭和20年(1945)3月18日と7月25日は稲童掩体壕(行橋市)から飛行場格納庫周辺が激しい空襲被害を受けた。この爆撃は飛行場周辺に隠した戦闘機や施設の壊滅を目的としたもので、アメリカ国立公文書館に7月25日の生々しい空爆映像が残されている。
 8月7日、上城井地区周辺など広範囲が攻撃され、上城井小学校の教員と児童4名が死亡し、多くの負傷者が出た。